

様式第 4 号

議事録又は議事概要

会 議 名	美浦村社会教育委員会議兼公民館運営審議会
開 催 日 時	平成 3 0 年 6 月 2 7 日 (水) 午後 1 時 3 0 分
開 催 場 所	美浦村中央公民館 2 階 会議室
議 題	(1) 平成 2 9 年度事業報告及び平成 3 0 年度事業計画について (2) その他
公開・非公開の別	公開
傍聴人定数・傍聴人数	傍聴人定数 6 名・傍聴人数 0 名
審 議 内 容	<p>Q. 学校司書の配置状況は。</p> <p>A. 小中各校へ司書を配置している。</p> <p>Q. 「あったか家庭塾（家庭教育学級）」の合同開級式参加者数が 2 8 名だったが、対象者数は何名か。</p> <p>A. 児童生徒数は 1, 1 0 0 名程度である。</p> <p>○かつては参加者がもっと多かった。参加いただけない方のほうが大変な状況にあるかもしれないので心配である。</p> <p>○「地域で支える家庭の教育力向上事業」の相談件数及び内容、結果を資料に掲載いただけるとよい。</p> <p>Q. 相談員による相談会等の実施予定はないか。</p> <p>A. 過去に青少年相談員が中央公民館において時間を決め、1 年間にわたり常駐したことがあったが、1 件も相談がなかった。相談を待つのではなく、こちらから出向いて行くという事業が「地域で支える家庭の教育力向上事業」である。</p> <p>Q. 「訪問型家庭教育支援事業」について、訪問対象の把握はどのようにしているか。</p> <p>A. 各小中学校と適応指導教室支援チームが連絡を取り合い、訪問する家庭を把握している。</p> <p>○「あったか家庭塾」等、催しや会合にご参加いただけるご家庭に問題はないのではないかと考えている。こうした場所にいらしていただけないご家庭が、大変な状況にある可能性があるため、相談があれば来ていただくのではなく、行政の方から各家庭に出向いて行く事業が「訪問型家庭教育支援事業」である。本事業は文部科学省が所管となっており、学校、適応指</p>

	<p>導教室が連携し、訪問支援いただいている。今のところ小中学校のみであるが、本年度より青少年相談員のご協力をいただき、幼稚園、保育所に通っていない子どもの家庭に出向く予定である。加えて、子育て支援団体が保健センターで行われる4か月児検診、1歳半児検診時に相談を受けている。これらを毎年継続していくことで村内の子どもたちのほとんどにつながりができ、切れ目ない支援の体制を構築していく。</p> <p>Q. 適応指導教室指導員、子育て支援団体とは、こういった役職か。</p> <p>A. 教員有資格者を配置しており、光と風の丘公園クラブハウスと学校を歩き来しながら、不登校児童生徒の支援を行っている。</p> <p>○保健センターでの読み聞かせ時に、子どもが一生懸命お話を聞いている中、携帯電話をいじっているお母さんもいる。しかし、参加しない方も中にはおられ、こうした方を支援していくことが必要。</p> <p>○多くの取り組みがあり素晴らしいことであるが、果たしてこれらの取り組みが認知されているのか疑問であり、より一層のPRが求められる。</p> <p>○子ども会の廃品回収を通して地区内のコミュニティが確保されていたが廃止になってしまった。地域ぐるみの活動を継続できたら良い。</p> <p>○講座の生徒さんの半数以上が村外から越して来られた方である。美浦村に魅力を感じて来られた方ばかりであり、自分も生まれ育った美浦村の魅力を再発見したい。</p> <p>○就学前の子どもが虐待を受けて死亡する事件を耳にする中、訪問型家庭教育支援事業という村を挙げての取り組みは素晴らしい。今後も関係機関と協力しながら継続してほしい。</p> <p>Q. 「地域未来塾」の参加者数を教えてほしい。</p> <p>A. 在席生徒約30名である。昨年度は週1回の開催で、少ない時は10名程度の時もあり、多い時は20名程度の出席であった。今年度は週2回の開催とし毎回20名程度の出席がある。生徒の勉強に対する姿勢はそれぞれだが、「地域未来塾」に来て勉強することが他の生徒へ波及していけば良いと考える。</p> <p>○各施設の利用者数の推移を掲載していただきたい。</p>
<p>そ の 他</p>	
<p>問 合 せ 先</p>	<p>美浦村教育委員会 生涯学習課  電話 029-885-4451  担当 正慶</p>